

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 20 日現在

機関番号：82674

研究種目：基盤研究(B) (特設分野研究)

研究期間：2014～2016

課題番号：26310112

研究課題名(和文)高齢者就業の新たな調整型支援システムの構築に関する総合的研究

研究課題名(英文) Comprehensive Study for the Construction of New Arrangement type Support System for Older Job seekers Employment

研究代表者

藤原 佳典 (Fujiwara, Yoshinori)

地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所)・東京都健康長寿医療センター研究所・研究部長

研究者番号：50332367

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 12,500,000円

研究成果の概要(和文)：首都圏における求職高齢者のおかれている立場は一様ではなく、所得や家族環境の格差は顕著でありその健康への影響も大きく、求職活動へのニーズが大きいことが明らかとなっている。特に長期求職者の中には経済面、家庭面、健康面、生活面等において複合的な課題を抱えた人たちが多く含まれることが明らかとなった。こうした対応が難しい群に対して、求職活動を入り口として、生きがいを含めた就業支援と共に経済支援、生活支援、健康支援等といった総合的な観点から長期的・継続的な対応が求められる。生活困窮者自立支援や社会福祉協議会といった他の地域資源とも連携した支援を検討する必要があることを明らかにした。

研究成果の概要(英文)：There is a variety of viewpoints where the older job-seekers stand by in metropolitan area. The disparities of income or family structure are obvious. And, the need for job search is big. The people who have complex troubles such as economic, family, health or daily life living situations are included especially in the job seekers staying for a long time. It is expected to support not only for job seeking but also general supports including economic, daily life, health supports, continuously in a long-run. It is cleared as essential to consider cooperation with other regional resources such as the support system for needy persons' independence or social welfare councils.

研究分野：社会医学

キーワード：高齢者就業 社会参加 生活困窮 地域援助

1. 研究開始当初の背景

一般労働力人口の減少と健常高齢者の増加といった社会経済的な要請、及び高齢者本人の社会的孤立予防、所得や健康等の面から高齢者の就業促進の必要性が指摘される。一方、申請者らのこれまで首都圏における高齢者の実態把握に関する大規模追跡調査から、高齢者のおかれている立場は一樣ではなく、所得や家族環境の格差は顕著でありその健康への影響も大きく、求職活動へのニーズが大きいことが明らかとなっている。

2. 研究の目的

そうした認識に立ち、本研究では以下の3つの目的を設定した。

大都市部における高齢者就業と求職活動の多様性を追跡し把握する
既存の職務・職種の中から高齢者の適正に合わせて懇切にマッチングを行う調整型就業支援システムの評価と展開
高齢者自身とそれを受け入れる社会とが互いに共有できる新しい高齢者就業観の提示

3. 研究の方法

それら目的を達成するために以下の4つの研究を実施した。

研究1. 大田区65歳以上高齢者に対して隔年(平成25年と平成27年)で実施する大規模郵送アンケート調査により、就業状況と求職活動の観点から分析を行う。

研究2. 高齢者就労支援施設である大田区いきいき仕事ステーションを利用する求職高齢者に対して年6回の郵送縦断追跡調査により求職活動・就業状況の縦断追跡を実施する。

研究3. 高齢者就業観を検討する研究会を立ち上げ、学術関係者、企業関係者他を招きディスカッションを実施する。

研究4. 求職モニターに対して個別面接を実施し、就職活動が促進する要因、停滞する要因について明らかにする。

4. 研究成果

研究1では、2015年7月~8月、東京都A区のB地域包括支援センター管内に居住する65歳以上の高齢者のうち要介護4以上の人、施設に入所している人を除く8,075人全員を対象に郵送式質問紙調査を実施し、そのうち5,020人から回答を得た(62.2%)。調査は、東京都健康長寿医療センター研究部門倫理委員会の承認を得て実施した。就労に関する状況が長時間(週35時間以上)就労中729人、短時間(週35時間未満)就労中801人、求職中186人、就労希望なし2771人の計4,487人を対象とした分析結果から、長時間、短時間就労に関わらず、現在就労中の人および求職中の人、就労していない人および就労意向のない人に比べて年齢が若く、男性、健康度自己評価が良好(多項ロジスティック回帰分析より)であることが明らかとなった。一方

で求職者は経済的理由で求職しており、精神的健康度が低い可能性が示唆され、求職者への就労支援においては、心理社会的な支援も考慮すべきであることが明らかとなった。

研究2では、地域特性を考慮し、またサンプル数を増やすために、大田区に加え板橋区の同等施設も対象として、施設職員に依頼し、初めて求職者登録を行った来所者に対して、無作為に初回調査の調査票(ベースライン調査:BL)を配布した。調査票配布期間は2013年1月28日から2015年3月31日までで、生活状況や健康状態について明らかにするための調査を行った。その後、初回調査の回答者それぞれに対して求職活動の状態の推移を明らかにするため、初回調査から2、6、14、26、38週後の計5回に亘り、郵送式の縦断追跡調査(F1-F5)を行った。2か所のASESCで調査票を配布した人数の合計は387人で、そのうち235人から回答があった(回答率60.7%)。追跡調査の回答者数はそれぞれF1:197人(83.8%)、F2:179人(90.9%)、F3:158人(88.3%)、F4:144人(91.1%)、F5:130人(90.3%)であった。

求職者の特徴を示す分析においては、初回調査の回答者全体235人(男性146人、女性89人、平均年齢63.7歳、SD5.6)を対象とし、求職活動の推移に関する分析では初回調査の時点で無職だった172人(BL回答者の73.5%、男性109人、女性63人、平均年齢63.3歳、SD5.4)のみを分析対象とした。

2010年の国勢調査の結果と比較すると、学歴においては「短大または専門学校卒業以下」の割合が高く(65.1%対都内の55-74歳平均47.4%)、世帯年収では「200万円未満」の割合が高い(39.1%対都内60歳以上高齢者の平均24.2%)。女性と比較して男性は社会的孤立傾向が高く、ASESCで求職活動を行う理由として最も一般的なのは「日々の生活費を稼ぐため」、以下「健康維持」「生きがい」「社会参加」と続いていた。特に女性のほうが就業について生きがいや社会参加と考える割合が高かった。

次に時間の経過と就職率の関係を明らかにするために、属性ごとに Kaplan-Meier 法による分析を実施し、ログランク検定を行った。その結果、性別、年齢の2つの基本属性と3つの希望職種(事務職、調理、清掃)において有意な差が見られた。年齢が若い人ほど、学歴が高いほど、また事務職を希望する人ほど、職を得るために長い期間がかかっていた。逆に調理や清掃を希望する人では比較的早期に職を得ていた。調査期間の38週で76.2%(172人中131人)の対象者が新しい職を得ており、就職までにかかる期間の推定平均は74.7日(SD8.5)、中央値は35.0日であった(図1)。その上でコックス比例ハザード回帰分析により就職率に影響を及ぼす属性について確認を行った結果、年齢と教育年数の2つの有意な属性を得た。

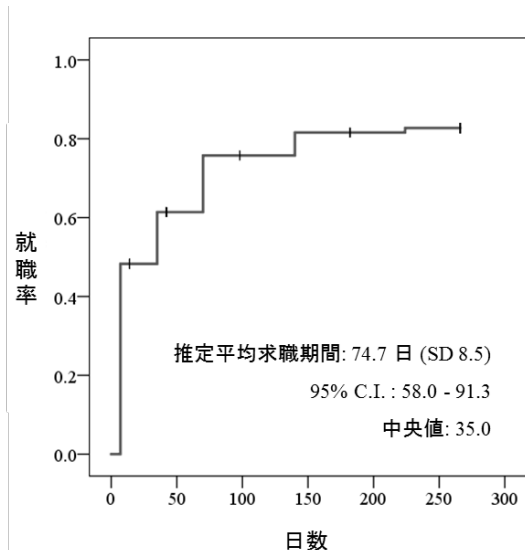


図1 就職率の推移（求職日数との関係）

以上からこれらの就労支援施設に訪れる高齢求職者では比較的教育年数が少なく、収入が低く、生きがいというよりも生活のために仕事を探している傾向が高かった。仕事の条件を受け入れられた半数が35日という短期間で就職していた一方で、対象者のうち23.8%では仕事を見つけることが出来ず38週間そのままの状態であった。若くて学歴が高い求職者ほど仕事につくことが困難であった。この傾向は一般に仕事を探すのに有利と考えられる特徴と正反対で、事務職を探す典型的なホワイトカラーほど仕事を見つけにくい状態であったといえる。

研究3ではコアメンバーを中心とし、3年間で合計12回の研究会を開催した。それぞれの講演者及び概要は以下の通り。尚、会場は全て東京都健康長寿医療センター研究所会議室にて実施した。

第1回 稲葉陽二(日本大学法学部教授)「社会関係資本全国調査の結果と高齢者就労への示唆」2014年12月1日 14:00~16:00

第2回 佐藤陽(十文字学園女子大学人間生活学部教授)「地域福祉を推進する社会福祉協議会を中心に—他機関との連携、有償活動、生活支援サービスとともに—」2015年1月28日 14:00~16:00

第3回 河邊彰男(一般社団法人人材派遣業協会統括研究員)「高齢者を対象とした人材派遣の現状と今後の見通し」2015年4月6日 14:00~16:00

第4回 田尻孝二(日本高齢者生活協同組合連合会副会長・生活協同組合東京高齢協専務理事)「高齢協が手がける高齢者就労のかたち」2015年6月22日 15:00~17:00

第5回 渡辺吉靖(公益財団法人東京しごと

財団しごとセンター課高齢者就労支援係係長)「東京しごとセンターにおける高齢者就労支援の施策と考え方について」8月24日(月)14時~17時

第6回 実歳美幸(テンポスバスターズ 前人材事業部部長)「テンポスバスターズにおける高齢者の雇用について」2015年11月2日 14:00~16:00

第7回 松田文子(大原記念労働科学研究所特別研究員)「高年齢労働者を対象とした心身機能測定と職場改善の実践」2015年11月2日 14:00~16:00

第8回 コアメンバーによる方向性の検討

第9回 稲葉陽二(日本大学法学部教授)「経済学から見た高齢者就労」2016年5月17日 13:30~15:30

第10回 杉啓以子(社会福祉法人江東園 TQM (Total Quality Management) 本部 経営企画管理室本部長)「江東園における高齢者活用の方策」2016年7月11日 14:00~16:00

第11回 南瀬(鳥取短期大学助教)「ESSENCE 研究の進捗状況報告」2016年9月12日 13:30~15:00

第12回 小塩隆士(一橋大学教授)「高齢者就業について；年金制度改革との関連」2016年11月28日 14:00~16:00

以上12回の研究会をふまえ、2017年1月22日に東京都健康長寿医療センター研究所3階第3会議室A・Bにてシンポジウム「持続可能な社会へ向けた高齢者就業の展望」を実施した。登壇者は3部18人、参加者は45人に及んだ。

研究4では求職者の中で特に対処が難しいと考えられる長期求職者に対する支援方法を検討するために、郵送調査回答者の内、初来所から38週後も就職にいたっていない人10名を第一群、未就業のまま回答が遅延している人32名を第二群として個別相談面接の案内を発送した。案内を行った第一群(長期求職者)10名の内、面接希望者は5名、希望しない人が4名、連絡不能が1名であった。第二群(回答遅延者)32名の内、面接希望者6名、希望しない人が15名、連絡不能が11名であった。連絡不能者の内、宛先不明が7名であった。面接希望者11名(平均年齢63.3歳)の内、男性が6名、女性が5名、内、生活保護受給者は2名であった。ASESC近傍の公共施設にプライバシーを保守できる個室を用意し、1回50分隔週の個別面接を実施し、アセスメントと地域連携による支援(社会福祉協議会、地域包括支援センター、シルバー

人材センター、生活困窮者自立支援窓口、近隣の医療施設など関連機関への紹介)の可能性について検討した。その結果、長期求職者の中には経済面、家庭面、健康面、生活面等において複合的な課題を抱えた人たちが多く含まれることが明らかとなった。こうした対応が難しい群に対して、求職活動を入り口として、生きがいを含めた就業支援と共に経済支援、生活支援、健康支援等、総合的な観点から長期的・継続的な対応が求められる。生活困窮者自立支援や社会福祉協議会といった他の地域資源とも連携した支援を検討する必要があることを明らかにした。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕(計 11 件)

1. Minami U, Suzuki H, Kuraoka M, Koike T, Kobayashi E, Fujiwara Y. Older Adults Looking for a Job through Employment Support System in Tokyo. PLOS ONE, 2016 Jul 21; 11(7)
2. 塚本成美 シルバー人材センターの原点と変革. 月刊シルバー人材センター, 労政労務, 2016, 4.
3. 塚本成美, 中村桃美, 石橋智昭 シルバー人材センター会員の前職と希望する職種の関係. 日本老年社会科学, 2016, 38(1), 57-65
4. 藤原佳典 高齢者の就労の現状と課題, 老年社会科学, 2016, 38(1), 94-101.
5. Minami U, Nishi M, Fukaya T, Hasebe M, Nonaka K, Koike T, Suzuki H, Murayama Y, Uchida H, Fujiwara Y. Effects of the Change in Working Status on the Health of Older People in Japan. PLOS ONE, 2015 Dec 3;10(12)
6. 塚本成美 高齢社会問題とシルバー人材センターの役割. 城西大学経営紀要, 2016, 12, 63-94.
7. 塚本成美 シルバー人材センター組織の特質; 組織原則をめぐって. 城西大学経営紀要, 2016, 12, 95-126.
8. 南潮, 藤原佳典 高齢者就労に関する先行研究 その2 高齢者就労支援のあり方についての検討. 公衆衛生, 医学書院, 2015.9, 625-8
9. 南潮, 藤原佳典 高齢者就労に関する先行研究 その1 高齢者の就労が健康に与える影響. 公衆衛生, 医学書院, 2015.8, 555-8.
10. 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 小林江里香, 深谷太郎, 内田勇人, 藤原佳典 都市部における新たな高齢者向け就労支援施設の取り組み. 日本公衆衛生雑誌, 2015, 62(6), 281-93.
11. Fujiwara Y, Shinkai S, Kobayashi E, Minami U, Suzuki H, Yoshida H, Ishizaki T, Kumagai S, Watanabe S, Furuta T, Suzuki T.

Engagement in paid work as a protective predictor of BADL disability in Japanese urban and rural community-dwelling elderly residents: An 8-year prospective study. Geriatr Gerontol Int, 2015 Jan 22. doi: 10.1111/ggi.12441.

〔学会発表〕(計 16 件)

シンポジウム 2 件

1. 日本公衆衛生学会第 75 回大会「高齢者の就業と健康」, グランフロント大阪(大阪府大阪市), 2016. 10.26
渡辺修一郎「高齢労働者の健康実態と健康管理のあり方」石橋智明「高齢者が支え手となる「生きがい就業」の有用性: 介護予防の視点から」南潮「都市高齢者就業支援施設に来所する求職者の特性」西山裕也「エイジレス就業実現のために: 能力と職務環境から見た高齢者が働きやすい職業の分析」
2. 第 57 回日本老年社会学会「プロダクティビティと高齢期」, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市), 2015.6.14
石橋智昭「シルバー人材センターにおける生きがい就労の現状」南潮「高齢期における求職活動の現実と課題」

学会発表

3. 箕浦明, 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 野中久美子, 小池高史, 松永博子, 深谷太郎, 渡辺修一郎, 小林江里香, 藤原佳典 ESSENCE 研究(1) 高齢者の求職活動の長期化が精神的健康度に与える影響 日本公衆衛生学会第 75 回大会, グランフロント大阪(大阪府大阪市), 2016.10.28
4. 松永博子, 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 野中久美子, 小池高史, 箕浦明, 深谷太郎, 渡辺修一郎, 小林江里香, 藤原佳典 ESSENCE 研究(2) 中高年齢者向け就労支援施設に来所する人の類型 日本公衆衛生学会第 75 回大会, グランフロント大阪(大阪府大阪市) 2016.10.28
5. 藤原佳典, 野中久美子, 南潮, 松永博子, 望月美希, 長谷部雅美, 小池高史, 小林江里香 大都市高齢就労者および求職者の心身社会的特徴—首都圏高齢者の地域包括的孤立予防研究 CAPITAL Study II より— 日本老年社会学会第 58 回大会, 松山大学(愛媛県松山市), 2016.6.11
6. 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 小池高史, 野中久美子, 松永博子, 望月美希, 深谷太郎, 小林江里香, 藤原佳典 高齢求職者・就労者における物忘れ愁訴と認知機能低下の関連 第 26 回日本疫学会学術総会, 米子コンベンションセンター(鳥取県米子市), 2016.1.22
7. 藤原佳典, 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 野中久美子, 小池高史, 渡辺修一郎, 深

- 谷太郎, 小林江里香 高齢求職者における希望職種と実際に就職した職種の差 - ESSENCE 研究(1) 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎ブリックホール(長崎県長崎市), 2015.11.5
8. 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 野中久美子, 小池高史, 渡辺修一郎, 深谷太郎, 小林江里香, 藤原佳典 高齢求職者に対する個別面接による介入 - ESSENCE 研究(2) 第 74 回日本公衆衛生学会総会, 長崎ブリックホール(長崎県長崎市), 2015.11.5
 9. 南潮, 望月美希, 新井克己, 松永博子, 鈴木宏幸, 小池高史, 野中久美子, 藤原佳典 都内における高齢就労者による自助組織「働く高齢者の会」の活動の歴史 第 10 回日本応用老年学会大会, 砂防会館(東京都千代田区), 2015.10.25
 10. 松永博子, 南潮, 内山愛子, 望月美希, 鈴木宏幸, 小池高史, 野中久美子, 藤原佳典 高齢求職者の就労ニーズと主観的阻害要因: 高齢者就労支援施設利用者を対象とした KJ 法による分析 第 10 回日本応用老年学会大会, 砂防会館(東京都千代田区), 2015.10.25
 11. 南潮 高齢求職者に対する臨床心理士による介入支援の試み - 高齢者専用就労支援施設来所者への介入. 第 34 回日本心理臨床学会秋季大会, 神戸国際会議場(兵庫県神戸市), 2015.9.18
 12. 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 小林江里香, 深谷太郎, 望月美希, 松永博子, 藤原佳典 都市部の高齢者専用就労支援機関における求職者の特性と求職活動期間の関係. 第 57 回日本老年社会学会, パシフィコ横浜(神奈川県横浜市), 2015.6.13.
 13. 藤原佳典, 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 小林江里香, 深谷太郎 就労支援施設を利用する高齢求職者の前職離職理由からみた特徴 ESSENCE 研究(1). 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 栃木県総合文化センター(栃木県宇都宮市), 2014.11.6
 14. 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 小林江里香, 深谷太郎, 内田勇人, 藤原佳典 就労支援施設を利用する高齢求職者の求職活動の推移と精神的健康 ESSENCE 研究(2). 第 73 回日本公衆衛生学会総会, 栃木県総合文化センター(栃木県宇都宮市), 2014.11.6
 15. 南潮, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 内田勇人, 藤原佳典 高齢求職者における相談できる人の存在と精神的健康の関係. 第 9 回日本応用老年学会大会, 桜美林大学プラネット淵野辺キャンパス(神奈川県相模原市), 2014.10.26
 16. 南潮, 高橋知也, 小川将, 鈴木宏幸, 倉岡正高, 小池未菜, 藤原佳典, 内田勇人 若者世代が持つ高齢者就労に対する意識 - 大学生、専門学校生に対するアンケ

ート調査から - 日本世代間交流学会第 5 回全国大会, 姫路商工会議所(兵庫県姫路市), 2014.10.11

〔図書〕(計 2 件)

1. 藤原佳典・南潮編「就労支援で高齢者の社会的孤立を防ぐ: 社会参加の促進と QOL の向上」ミネルヴァ書房 2016 年 11 月 ISBN:4623077454
2. 藤原佳典・小池高史編「何歳まで働くべきか? (ジェロントロジー・ライブラリー 高齢期の就業と健康)」社会保険出版社 2016 年 10 月 ISBN:4784602992

〔産業財産権〕

なし

〔その他〕

ホームページ等

URL:

<https://sites.google.com/site/elderlyemployment/>
 高齢者就労支援研究プロジェクト
 ESSENCE 研究会(Employment Support System for Enhancing Community Engagement)

6. 研究組織

(1) 研究代表者

藤原 佳典 (FUJIWARA Yoshinori)
 地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所), 東京都健康長寿医療センター研究所, 研究部長
 研究者番号: 50332367

(2) 研究分担者

塚本 成美 (TSUKAMOTO Narumi)
 城西大学経営学部, 教授
 研究者番号: 10227374

石橋 智昭 (ISHIBASHI Tomoaki)
 公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団, ダイヤ高齢社会研究財団(研究部), 主席研究員
 研究者番号: 10407108

渡辺 修一郎 (WATANABE Shuichiro)
 桜美林大学, 自然科学系, 教授
 研究者番号: 20230964

稲葉 陽二 (INABA Yoji)
 日本大学, 法学部, 教授
 研究者番号: 30366520

南 潮 (MINAMI Ushio)
 鳥取短期大学, 公私立大学の部局等, 准教授
 研究者番号: 20775829

(3)連携研究者

小林 江里香 (KOBAYASHI Erika)
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所),
東京都健康長寿医療センター研究所, 主任研究員
研究者番号： 10311408

野中 久美子 (NONAKA Kumiko)
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所),
東京都健康長寿医療センター研究所, 研究員
研究者番号： 70511260

小池 高史 (KOIKE Takashi)
九州産業大学, 国際文化学部, 講師
研究者番号： 00707929

倉岡 正高 (KURAOKA Masataka)
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所),
東京都健康長寿医療センター研究所, 研究員
研究者番号： 50596848

鈴木 宏幸 (SUZUKI Hiroyuki)
地方独立行政法人東京都健康長寿医療センター(東京都健康長寿医療センター研究所),
東京都健康長寿医療センター研究所, 研究員
研究者番号： 90531418

(4)研究協力者

箕浦 明 (MINOURA Akira)
東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム

松永 博子 (MATSUNAGA Hiroko)
東京都健康長寿医療センター研究所 社会参加と地域保健研究チーム

中村 桃美 (NAKAMURA Momomi)
公益財団法人ダイヤ高齢社会研究財団 リサーチアシスタント